



飯塚選手

中央大学OBで陸上競技
千葉県流山市で子どもたち

ンピック選手になりたい人はいますか」と尋ねられると10人がパッと手を挙げた。

講習会は飯塚選手がマイクを持って始まった。準備体操後、会場のキッコーマンアリーナ(流山市民総合体育館)メインアリーナを周回するジョギング。

「僕の後ろについてきて。カメラに映るよ」と飯塚選手。この日はNHKや新聞各社が取材に来ていた。

次はアリーナの横幅53mの直

『Dream of sports! トップアスリート in Nagareyama』と題して、中央大学学生会・流山白門会が主催した。

第1部は小中学生対象の「スポーツキッズ陸上ミニ講習会」

コーチ役は、日本列島に興奮と感動をもたらした2016年リオデジャネイロ五輪陸上4×100mリレー銀メダル第2走者の飯塚選手と2012年ロンドン五輪陸上女子4×100mリレー第2走者の市川華

菜選手(ミズノ)。

飯塚選手は2017年世界陸上ロンドン大会リレー同種目の銅メダリストでもある。

受講する子どもたちは、同市内の小学1年生から中学生までの先着約200人。当日午後1時の講習会受付に先立つ午前9時頃には受付に順番待ちの長い行列ができていた。

開会式の主催者あいさつで、児童・生徒たちは「この中で将来オリ



五輪メダリストが 児童ら200人を指導

の陸上講習会



2016年 秋号表紙

五輪・世界選手権メダリストの飯塚翔太選手(ミズノ)らが1月8日、
を指導した。

線を走った(縦37位)。ゆっくりスタートして、途中でぐんと加速する銀メダリストに「オオッ」「速い」と驚くジュニアたち。

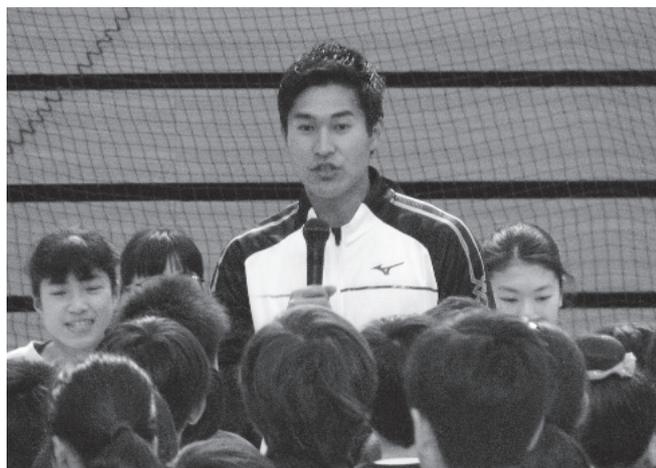
納得の笑顔

何度も走るうち、児童・生徒たちの表情がますます明るくなっていく。流れる汗が気持ちよさそうだ。

水分補強を終えると、飯塚選手がみんなを集めて問い掛けた。「短距離走のスタートでは、どっちの足を前へ出しますか」

考える児童・生徒たち。しばらくして解答が出た。「だれかに背中を軽く押ししてもらいましょう」。実践のアクションがあった。「こうやって前へ出た足をスタートでは後ろにもっていきます」

こうやれば今度から力強くスタートできる。納得した子どもたちに笑みがこぼれた。



飯塚選手は「楽しかったです。速い子がいて、つい観察してしまいました」と感想を述べた。

続いては五輪選手2人による「スペシャルトーク」。司会は中大OGでフリーアナウンサー／経済アンカーの曾根純恵さんが務めた。

五輪選手村で人気を集めたメニューの紹介など楽しいグルメの後には、リオ五輪でメダル獲得

の決め手となったアンダーハンドパスの実演もあった。

2020年東京五輪に向けて、「日本の短距離選手が世界に通用するパフォーマンスを見せたい。そして陸上競技の競技人口をもっと増やしたい」と抱負を語った。

子どもたちには「自分の周りの人を大切にしてほしい」とのメッセージを発信し、チームで戦うリレーメンバーの心意気を見せていた。